

大に伴い、貫流ボイラーや熱交換器といった製品が開発され、産業界の下支えとなりました。製品缶体製作時には「溶接」作業が必要であり、技術を習得していきます。それ以降、溶接技術を高めるために全日本ボイラー溶接士コンクール（以下「コンクール」という）への参加が始まりました。

コンクールは、溶接の品質向上だけでなく、参加者本人の成長が著しくわかります。その背景には、限られた時間の中で決められた課題に取り組むことで場面での対応力が身に付き、無駄のない動きがコンクールへの出場回数を重ねる事で身に付いていきます。また、競技中は選手がブースで仕切られているので、他の選手の状況は音でしか分からず、溶接アークの音やスラグをとる音、治具を外す音が自分より早く聞こえたりすると焦りに繋がるなど、自分が持っている技術力を100%出し切れるかといったメンタルを鍛えるためのトレーニングの場でもあります。実際それが生きてくる場面として、当社が納めている製品の経年劣化による漏れ等の補修で溶接士が対応するのですが、製品は製造ラインの熱源に使用されているため、溶接補修する際は操業を停止して頂きます。生産に直結しているので止められる時間が限られた中で最高のパフォーマンスを出さなければならず、時間内で作業を完了させるといった時に、コンクールでの経験が生きてきます。

溶接の技能は、2、3年で修得できるものではありません。ですが、企業は一日でも早く戦力になってもらわなくてはならず苦労しています。そういった場面においても、コンクール参加は自分のレベルが今どこまで来ているか再確認することができ、更なる技術向上へ繋がります。社内では、職人の背中を見て学ぶのではなく、コ

## フレームアイ

### 『仕事と暮らしに役立つタイミング マネジメント®』第7回「入社後のフォローのタイミング」が定着率を高める！

4月はフレッシュな新人が職場に配属になる日を楽しみにしている先輩や上司も多いのではないのでしょうか。そんな中で、最近は期待していた新人がすぐに辞めてしまい周囲が落胆するというケースを耳にすることがあります。人手不足が蔓延している中で企業の採用意欲が高く、売り手市場が続いている今、若手の早期離職に拍車がかかっています。せっかく新人を採用しても定着しないと意味がありません。職場で早期離職の対策・防止策を講じることが急務といえます。

最近に入社後3ヵ月も経たないうちに退職してしまったり、体調を崩したり、メンタル不調になって休職するケースも発生しています。一人ひとりの状況を観ながらタイミングよく「個別フォロー」をしていくことが重要です。新人がイキイキ働けるように、入社1年目で注意すべきフォローのタイミングについて考えてみたいと思います。

#### 注意すべきフォローのタイミング

##### (1) 5月・連休明けのタイミング

コンクールや技能五輪に向けて、先輩からのサポートにより技能の伝承を行っています。製品を作っているメーカーとして誰もが同じ溶接クオリティーを目指すべく、#人財#育成と改善活動を行い、同じ電流値で同じ棒で同じクオリティーを目指して日々取組を行っています。

昨今の人材獲得が難しい中で、製造業への就職は地方ですら厳しくなっており、溶接作業を希望する学生も少なくなっています。高校や大学で学生と話す機会があった時に、学生から「製造のハードルが高く感じている自分が物を作るイメージが湧かない」といったことを言われました。溶接作業は工業高校でも授業のほんの一部であり、溶接技術に長ける指導までは難しい状態もあるのかもしれません。そういった話を聞き、当社で何かできないかと考えました。そのような中で近年では、高校へ出向き、溶接指導に取り組んでいます。溶接の基本を教えることに加え、高校生の溶接コンクールへの参加協力、インターンシップ等で溶接の楽しさを伝えています。

前述のように溶接の技能向上には時間がかかります。早くから溶接に携わることは技能取得の近道となります。当社では工場での職業体験も行っており、溶接技術向上の楽しさを伝えることに加え、工場で練習機会があり、社内の雰囲気を感じることができると、求人面での効果も期待できます。また、学校にとっても溶接のプロからの指導により、高いレベルの競争ができることで学校のPRとなります。学校との溶接技術交流はできる限り継続していきたいと考えています。

今後もコンクールには積極的に参加する意向です。#人財#の育成とボイラー業界の技能向上に向けて微力ながら貢献していきたいと思います。

(株)前田鉄工所 常務取締役 半谷 翔

社会人になり、新しい環境や慣れない人間関係で緊張状態が続き、5月の連休までかなりのストレスが溜まっていきます。「5月病」という言葉があるように、長期の連休の後は会社に行きたくない、何となく体調が悪い、仕事に集中できない、やる気がでない等の状態が続くことがあります。また、学生気分に戻りすぎてしまい、ビジネスモードにギアを入れ直すのに時間がかかってしまう人もいます。

(2) 新人研修が長期になった場合（技術研修 etc.）は配属後1週間ぐらいのタイミング

研修期間が長く続くと同期と過ごす居心地のいい環境に慣れてしまいます。配属後に現場の厳しさとスピード感についていけず、研修環境とのギャップを感じ、疲弊してしまう社員が見受けられます。

(3) 入社3ヵ月後（7月頃）のタイミング

入社後3ヵ月ぐらい経った時期はようやく社会人生活や職場にも慣れてくる頃です。余裕も出てくる時期なの

で、会社を第三者の目で見ようになり他社と比較するようになります。仕事がうまくいかない要因を他責にしてしまう傾向があり、離職のきっかけにもなってしまいます。

#### (4) 年末に近づく 11 月～12 月頃のタイミング

この時期になると任される仕事も増えてきて忙しくなってきます。その結果、さまざまな不安や不満、悩みを持つ人が多くなります。将来に漠然とした不安を感じて年末年始の休暇中に退職するかどうかの決断をし、年明けに退職届を出す人が増えています。転職に関する情報も増えてくる時期と重なるため、来年もこの会社でがんばるかどうかなどということを悩みだす時期かもしれません。

#### 「話を聴く・認める」ことがカギ！

前記の注意すべきタイミングでどのような策を講じればよいかということになりますが、特別なことをするのではなく、「新人の話に真摯に耳を傾ける。相手を認める。ほめる」ことを積極的に行うことが大切です。あるアンケート調査によると、離職を踏みとどまった理由の中で「人との関係」が大きなウェイトを占めているということがわかりました。「職場に目標となる人がいた」「会社を辞めようかなと心の中で思っていたときに上司・先輩と腹を割って話すことができ、この会社でもう少しがんばってみようかなと思った」という話を聞いたことが

あります。一方で「忙しい先輩や上司に話しかけるタイミングがわからない」「先輩とどこまで本音で話をしたいかわからない」「上司や先輩が自分をどう思っているか気になる」という戸惑いや不安の声も耳にします。

社会人になって初めて対処することばかりで、思うように結果が出ないと自信を失ってしまい、自己肯定感も低下します。「この会社で自分はやっていけるのだろうか？」という不安やストレスが溜めこまれないうちに「フォローのタイミング」を意識して、積極的に新人の思いや考えを聴いたり、努力を認めることが「存在の承認」につながります。自分の居場所を確認でき、安心して仕事に邁進していけるようになるのではないのでしょうか。辞表を出されてからでは「時すでに遅し」です。

また、新卒は手厚く教育を受けることができますが、即戦力としてキャリア採用された人は社内で気軽に相談できる人がいないケースがあり、孤独になりがちです。キャリア採用者へのフォローのタイミングも意識して行うことが定着率の向上につながります。

効果的なフォローのタイミングと対話を通じて、職場に自分の理解者、協力者、味方がいることに気づかせ、「この会社でがんばってみよう！」というやる気を引き出していきましょう。

(株)プライムタイム 代表取締役 坂本敦子)

## お知らせ

### 第 75 回全国工作責任者大会の質問事項を募集します

2025 年度（第 75 回）全国工作責任者大会は、本年 11 月 13 日(木)、東京都にて開催を予定しておりますが、同大会における質問事項を募集いたします。

ボイラー及び压力容器安全規則、ボイラー及び压力容器の構造規格、溶接工作一般等について、日常業務の中で生じた疑問がございましたら、当協会ホームページの下記 URL から質問用紙のフォーマットをダウンロードしていただき、E メールにて当協会技術普及部（下記ア

ドレス）までお送りください。締切は 5 月 23 日(金)です。なお、同大会で質問についての討議を行います。質問が多数に及んだ場合は同大会に参加予定の方の質問を優先させていただきますので、ご了承ください。

<質問フォームダウンロードページ>

<https://www.jbanet.or.jp/conference/work/>

<E-mail> eng@jbanet.or.jp

※件名は「工作責任者大会質問」としてください。

## ◆ 2025 年度「エネルギー機器等研究助成」採択課題の決定について

当協会では、熱流体を扱うエネルギー機器等の安全、省エネルギーおよび地球環境保全の推進に資するため、ボイラー、压力容器及びその周辺機器又はシステムに関連した分野の調査・研究に対する助成を行っています。

2025 年度「エネルギー機器等研究助成」の対象となる採択課題を次のとおり決定しました。（敬称略）

①「多孔質流路側壁を有する平板型自励振動ヒートパイプの熱輸送特性に及ぼす作動流体の影響」

黒瀬 築（横浜国立大学）

②「円管内を振動する潜熱マイクロカプセルスラリーの熱輸送特性」 田中 学（千葉大学）

## ◆ 2025 年度特級ボイラー技士免許試験受験準備講習会のご案内

本年 10 月 23 日(木)に実施される特級ボイラー技士免許試験に対する受験準備講習会を開催いたします。

講習では、この 4 月に公表された最新の試験問題を含む過去の出題傾向を分析し、試験のポイントをわかりやすく解説しますので、苦手な部分やわからない点を講習で解決し、効率的に受験勉強を進めることができます。

受講科目は、全科目または科目別に選択して申込が可能です。

なお、今年度も会場での講習とともに、Zoom によるリモート受講も可能なハイブリッド開催といたします。科目によって会場での受講またはリモート受講を選択することも可能です。また、当講習を過去に受講されたこ